



体育館を内包した「アリーナパーク」

「アリーナパーク」に集う人々の賑わいが新しい風景となる

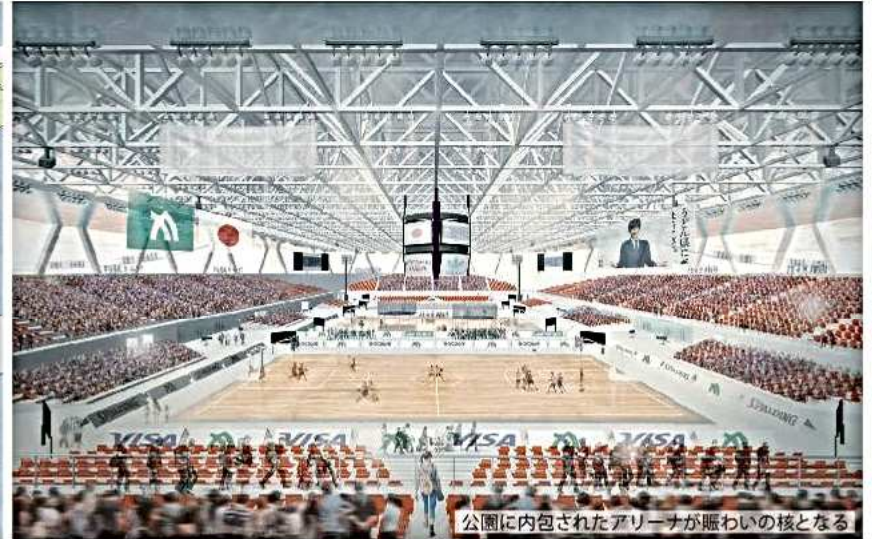
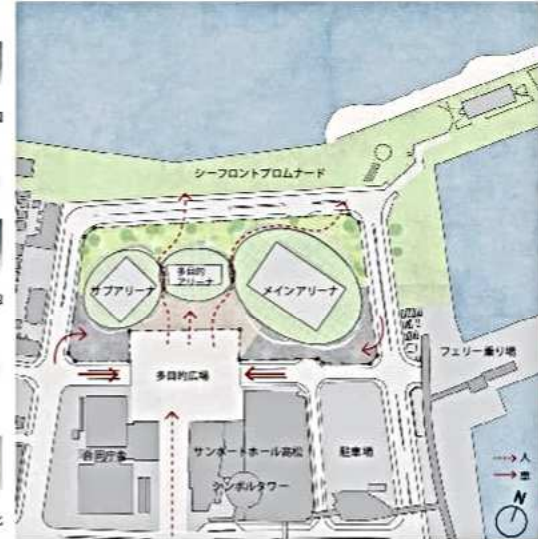
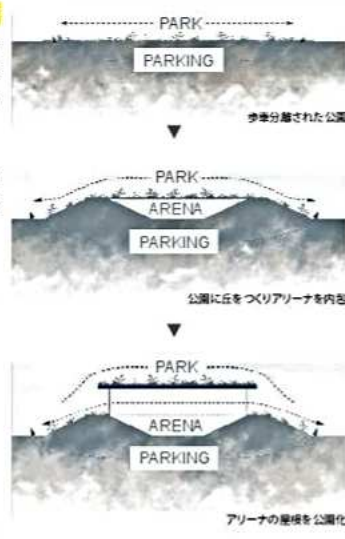
私たちが提案するのは、アリーナ単体ではなく、アリーナを内包した公園「アリーナパーク」です。人々の日常にひとときの安らぎと喜びをもたらす公園。その公園にアリーナを内包することで、人々の賑わいがアリーナ内だけで完結せず、アリーナの外側にまで広がります。

公園の日常性とアリーナの祝祭性を掛け合わせることで、子どもからお年寄りまで、誰もがいつでも気軽に訪れられる場所を目指します。

「アリーナパーク」には、老若男女さまざまな人々が集える5つの場所をつくります。

- ・都市的な賑わいがある「フロントパーク」
- ・海を臨む憩いのスペース「パークヒル」
- ・イベント会場にもなる公園「ルーフトップパーク」
- ・3つのアリーナを繋げる回廊「パークコリドー」
- ・立体的な景色の変化を楽しむ「パークスロープ」

街、自然、そしてアリーナの新しい関係性を創り上げます。



公園に内包されたアリーナが賑わいの核となる



海と街と山がつくる香川らしい風景に馴染むアリーナパーク

1. 立地条件を考慮したデザイン

フロントパーク

駅からのアプローチを受け止めるアリーナのメインアプローチです。既存の多目的広場と連続させて、サンポート高松全体を大きな中にはとします。周辺施設からの人の流れを受け止めて、都市的な賑わいをもたらします。

パークヒル

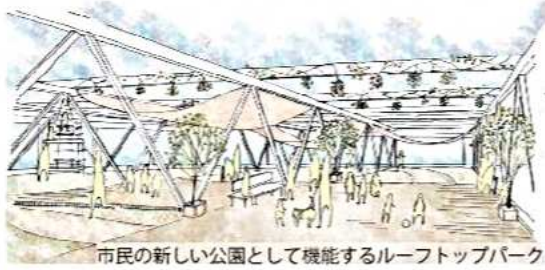
パークコリドーから海に向かって下りる丘上の公園です。海を臨む客席としての機能します。前面道路を歩行者天国とすることにより、パークヒルと歩行者天国、シーフロントプロムナードが一体となった、伸びやかなウォーターフロントを作り出します。



駅前の賑わいを受け止めるフロントパーク

ルーフトップパーク

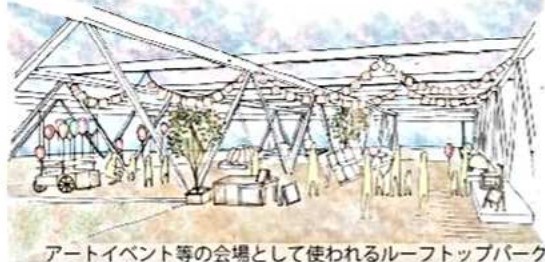
アリーナの屋根を上公園として整備します。屋根を支えるトラス梁の構造体を活かしてオーニングをかけて木陰をつったり、子供のための遊具をつつしたりして、日常的な公園としての小さなスペースを作ります。360度、海から街まで見渡すことのできる「ルーフトップパーク」はサンポート高松に新しい展望体験を付け加えます。



市民の新しい公園として機能するルーフトップパーク

パークコリドー

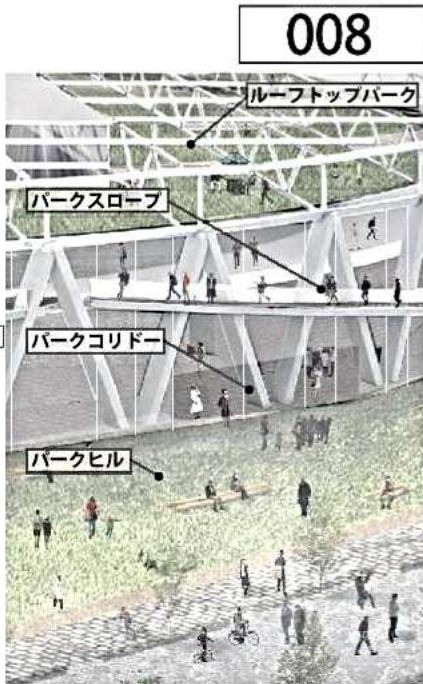
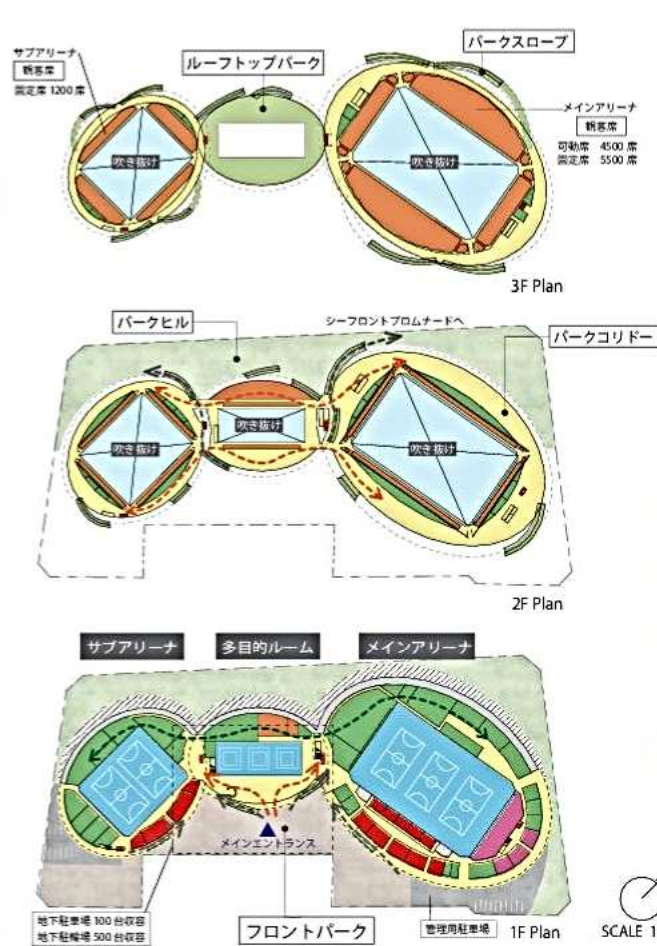
アリーナの外周には半屋外の回廊を設けます。回廊には3つのアリーナ(メイン、サブ、多目的)を結ぶように設けられ、各アリーナを回遊しながら、海や街を眺めることができます。また、4つのランニングコースも提供します。多目的アリーナを回遊する120mコース、サブアリーナを回遊する200mコース、メインアリーナを回遊する300mコース、そして、3つのアリーナを編むように回遊する1000mのコースなど、海と街の景色の変化を楽しみながらランニングすることが可能です。



アートイベント等の会場として使われるルーフトップパーク

パークスロープ

アリーナの外を回遊しながら、屋上の「ルーフトップパーク」までつながるスロープです。「パークアリーナ」を立体的に結び合わせます。スロープからは高さの変化により移り変わる景色の変化を楽しむことができます。イベント時には、大人数の利用者を効率的に安全に帰すことができます。



「アリーナパーク」は、ハード・ソフト面で多目的で柔軟な利用が可能です。体育施設利用者だけでなく一般の市民や近隣の他県からも多くの人が集まります。

諸室凡例	動線凡例
■ アリーナ	--- 観客動線
■ 管理棟	--- 管理動線
■ 観客利用	--- 外部動線
■ 選手利用	
■ 共用部	
■ メディア	

SCALE 1/2000

既存サンポート高松国際会議場からの眺望

新体育館屋上が「ルーフトップパーク」となって「アートイベント」「マルシェ」「子供の遊び場」となり賑わいをつくります。



既存サンポート高松大ホールホワイエからの眺望

新体育館の「フロントパーク」と既存の多目的広場が一体となって日常的に賑わいのあるまち並みをつくります。



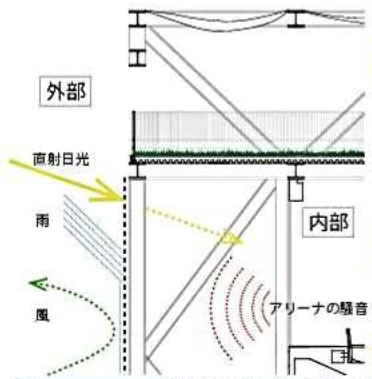
2. 時代とともに歩める使いやすい施設の機能性

内部空間で活動する体育館において敷地外部や屋上においても空間の利用頻度を高め、地域住民の憩いの場になる賑わいをつくります。

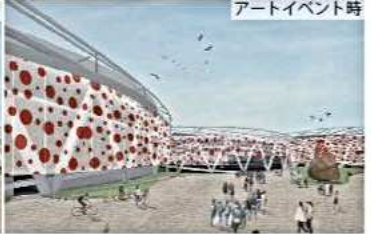
イベントメニュー	瀬戸内国際芸術祭
	さぬきマルシェ
	さぬき高松まつり花火大会
屋外利用メニュー	子どもが遊ぶながら運動できる遊具広場
	日常的に人が集まるウォーキング・ジョギングコース
	海を眺める屋外ファニチャー
	瀬戸内海を望むカフェテリア・レストラン

3. 時間と空間を共有する喜びを体感できる場づくり

4.ECOスクリーン



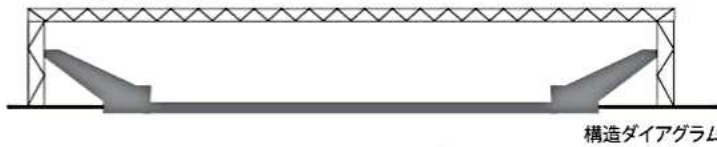
アリーナは、外周全体をシンプルな昇降機能を有する懸垂幕により覆います。“幕”を“環境制御のための膜”として機能させることで、直射日光を速く住居のエリアに迫る部分では、目隠しや消音のためのスクリーンになります。さらに、駅からのアプローチに面する部分は、**広告媒体として機能し**スポンサーの広告やイベントの告知に利用されます。幕1本からの小口の広告収入が見込めるため、施設の運営やメンテナンス、イベントの運用に**経済的な面**で寄与します。また、定期的に広告が入れ替わることで、スクリーンが新陳代謝するため、メンテナンスの頻度が軽減します。エコロジーとエコノミーが掛け合わせることで、**サステナブルな環境制御が可能**になります。



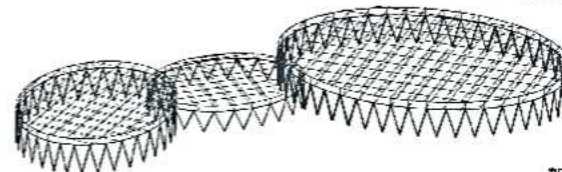
5.構造性能・環境性能の合理性

大スパンを構成するのに最もシンプルを構造であるトラス架構とすることで、**コストの低減化、工期の短縮化**を図ります。楕円形のプランに対して一方向にトラス架構を構成し、外周のV字型フレームで受けることにより、**内部のプランに依存しない自立した屋根構造を形成**します。

シンプルで合理的な構造システム



構造ダイアグラム



架構モデル

多目的利用を実現する設備の可変性

プロスポーツや団体などの大きな大会やコンサートなどのイベントに対応できる設備にします。アリーナの構造トラスやキャットウォークで構成し、**トンや照明といった舞台設備を始め、音響設備、放送設備等の拡張性・可変性のフレキシビリティを高めることで、将来、放送やイベントの多様化にも対応**できます。

6.LCCの縮減と長寿命化

計画初期段階にコストプランニングを行い、建設コストを管理しながら**建設費の縮減と重要要素とのベストバランスを検討**します。ライフサイクルコストの中で**初期建設コスト**はおおよそ10%で、多くがエネルギー・維持管理・改修など**建物完成後のコスト**です。**シンプルな省エネルギー技術の積極的導入によりライフサイクルコストを低減**します。

建設コスト管理手法

設計初期段階での予算配分	BIMによる速やかな数量把握とコスト検証への活用
基本性能を満足させる最小限コストモデルの策定	市況の物価動向の注視とコストスタディーへの反映

LCC縮減メニュー

シンプルかつ合理的な構造システムでコスト低減	職人不足を克服する現場作業員の省力
構造・設備等、更新サイクルを見据えた適材適所	環境負荷の小さい自然素材(木材・石材) VOC発生が少ない建材採用

長寿命化メニュー

構造躯体・空調設備の塩害対策と防錆処理	防汚性を高める「環境スクリーン」によるメンテナンスフリーデザイン
省エネ計画によるライフサイクルコスト削減	海側の外装には地元産石仕上げ採用

屋根のメンテナンス性

ルーフトップパークからトラス屋根のキャットウォークに入ることが出来るので、**メンテナンスが容易**です。

自然採光

アリーナの上層はルーフトップテラスから内部が見える構造になっています。また四面採光のハイサイドライトにより**最大限自然採光**をとりいれます。(直射日光はオーニングにより遮る)

居住域空調

アリーナ部分は居住域置換空調を採用し、無駄なく効率的に空間を空調し、**競技に影響**のでないシステムとします。

自然換気

アリーナ上層のハイサイドの換気窓から排気を行う**重力換気**を採用します。

概算工事費

工事費構成	金額 (千円)
建築工事	8,990,730千円
電気設備工事	1,148,070千円
機械設備工事	2,251,410千円
昇降機工事	298,200千円
外構工事	864,780千円
総経費	13,568,180千円
合計	14,910,000千円
消費税 10%	1,491,000千円
総合計	16,401,000千円

面積表

部門	面積 (㎡)
メインアリーナ	4,800
競技部門	2,900
一般部門	9,800
小計	17,500
サブアリーナ	2,500
競技部門	1,400
一般部門	3,100
小計	7,000
武道施設兼多目的ルーム	1,700
競技部門	1,000
一般部門	3,000
小計	5,700
合計	30,200

工程表

